

I-Basho (いばしょ) プログラム

誰もが明日も登校したくなる学校実現に向けて、居場所となる学校づくりについてみんなで考え、実践していくプログラムです。

<共通理解>

動画①「生徒指導の理解を深める編」

発達支持的生徒指導について、共通理解を図ります。

<対話>

動画②「子供たちの発達を支える編」

動画①の内容や、調査の結果を基に、明日からできる手立てを協働で考え、共通実践を生み出します。

<調査>

アンケートツール

実態調査を行い、児童生徒の声を聞きます。

<実践>

ワークシート

考えた手立てを実践し、日常的に振り返りや情報共有を行います。

先生方の声

生徒指導の近況について先生方の実践を聞いたり、子供たちの実態を基に話し合ったりすることで、より安心して学校生活を送ることができるような手立てを考えることができました。



A教諭



B教諭

これまでの実践を生徒指導実践上の四つの視点で整理することで、具体的な取組をイメージしやすかったし、生徒指導に自信が持てました。

ホームページで待っています!



詳しく知りたい方は

令和7年度教育課題研究
生徒指導研究グループ
ホームページはこちらから



やってみよう
みんなで作る
いいいばしょ

宮城県総合教育センター
令和7年度生徒指導研究グループ

明日も登校したくなる学校づくり

私はBashoロボです。
居場所となる学校づくりを
一緒に進めていきましょう。

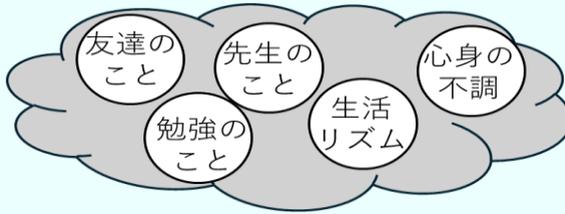


学校に登校していない児童生徒*は増加傾向です。その減少に向け、新規発生の抑制が重要視されています。日々の何気ない働き掛けを、児童生徒の発達を支える意図的なものに変えてみませんか。

*宮城県では「不登校」を「学校に登校していない児童生徒」と表現しています。

踏まえておきたい 児童生徒の声

各種調査から、学校に登校していない児童生徒が登校したくなくなる「きっかけ要因」は多岐にわたることが報告されています。



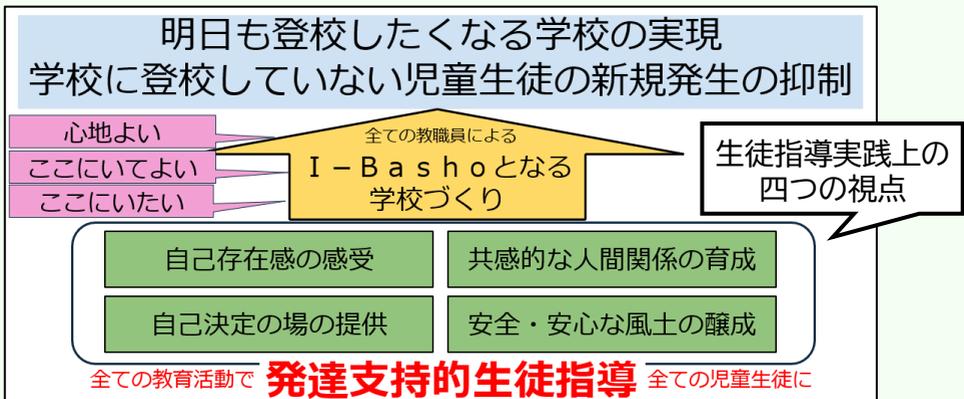
要因の全てへの事後対応は困難



「**発達支持的生徒指導**」が有効です。特定の課題を意識することなく、**全ての教育活動**において、**全ての児童生徒**に対して行われる働き掛けです。(生徒指導提要より)

発達支持的生徒指導を要とした 居場所となる学校づくり

<居場所となる学校づくり全体図>



発達支持的生徒指導を充実させ、「**居場所となる学校づくり**」を進めていきましょう。その際に、「**生徒指導実践上の四つの視点**」を意識することも大切です。(生徒指導提要より)



発達支持的生徒指導の取組事例

教職員調査で挙げられた取組を紹介します。
右側の枠に、実践してみたい取組を考えてみましょう。



朝

<朝の会>

- ・児童生徒に今日の目標を設定させる。
- ・ペア・グループによるトークタイムを設定する。



<授業>

- ・授業の流れを可視化する。
- ・めあてや学び方を自己決定する場を設定する。



<休み時間>

- ・教員も一緒に活動する機会を設定する。
- ・児童生徒にイベントを企画・運営させる。



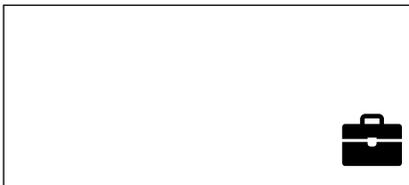
<特別活動>

- ・一人一役の活躍の場を提供する。
- ・異学年交流の場面を設定する。



<帰りの会>

- ・互いの頑張りを褒め合う時間を設定する。
- ・目標の振り返り、明日の予定を確認する時間を設定する。



<1日を通じて>

- ・一人一度は声を掛ける。
- ・名前を呼んで挨拶をする。



昼



夕

発達支持的生徒指導は、**全教職員で組織的に**取り組むことでより効果的になります。次ページの「**I-Bashoプログラム**」に取り組みましょう！（個人でも実施可）

